

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

歴史文化とアイヌ工芸の里「びらとり」雇用創造プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道沙流郡平取町

3 地域再生計画の区域

北海道沙流郡平取町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の概要

平取町は北海道日高振興局管内西端に位置し、面積743.16km²で東西52.8km、南北41.1kmとやや三角形に似た地形を呈し、新千歳空港から車で約1時間の距離にある。

町を貫流する沙流川の清らかな流れが育んだ、豊かで雄大な自然のもと、この地に先住し自然を敬い共生してきたアイヌの人々の生活文化や、先人達が共に築いた歴史・文化を守り育てながら、農林業を基幹産業として発展してきた。

4-2 現状と課題

(人口)

平成25年3月31日時点の住民基本台帳によれば、当町の人口は5,663人で、平成17年と比較すると568人(9.1%)減少しており、最も多かった昭和35年の13,387人からみると、この半世紀で半分以下まで激減し、高齢化率は30.0%(平成25年3月31日住民基本台帳)と北海道平均(26.2%)よりも3.8ポイント上回っている。日本全国が人口減少の社会になっていくことを踏まえると、過去の実態からみても、人口増加の目標値を設定することは困難と言えることから、過疎化を抑制し、若年・中年層を地域に定着させる方策が必要である。

人口推移と世代別構成の状況

項目	平成17年	平成25年	増減率(%)	北海道(平成25年)
総人口	6,231 (100.0%)	5,663 (100.0%)	△9.1	5,465,451 (100.0%)
年少人口 (15歳未満)	865 (13.9%)	658 (11.6%)	△23.9	641,735 (11.7%)
生産年齢人口 (15歳以上65歳未満)	3,774 (60.1%)	3,306 (58.4%)	△12.4	3,391,699 (62.1%)
老年人口 (65歳以上)	1,622 (26.0%)	1,699 (30.0%)	△4.7	1,432,017 (26.2%)

出典：住民基本台帳人口（北海道総合政策部統計課） 各年3月31日時点

就業構造は、平成22年の国勢調査によると、15歳以上の就業者数は3,043人で、産業別では、第1次産業従事者が36.6%、第2次産業が16.1%、第3次産業が47.3%となっており、北海道全体の平均値と比較すると第1次産業が29.4ポイント高くなっている(北海道:7.2%)。反面、第3次産業は24.3ポイント低くなっている。第1次産業以外の就業の場が少ないのが課題と言える。

(農業)

農業はもともと稲作・畑作中心であったが、稲作からの転作作物としてトマトのハウス栽培が始まり、平成25年にはトマト生産量が約12,000トン、販売高42億円余りに達し、現在は、ニシパの恋人のブランドで知られるトマトの一大産地となっている。しかしながら、平成22年の278戸の販売農家のうち、50歳以上の農家経営者が約67%と全体の約3分の2を占めており、後継者または後継者候補がいるのは全体の56.8%に過ぎない状況で、農業従事者の高齢化と後継者不足が課題となっている。

(伝統工芸)

伝統工芸については、平成25年3月に、100年以上の伝統的な技術・技法が現代まで継承されてきたことが認められて、二風谷イタ(木製のお盆)と二風谷アットゥシ(オヒョウなどの樹皮からつくった糸を用いた織物)が経済産業大臣から北海道で初めて伝統的工芸品に選定されるなど、アイヌ伝統工芸の産地として知られている。

昭和40～50年代の北海道観光ブームの当時は木彫りなどの工芸品の販売が順調であったが、その後、消費者の嗜好の変化に対して、歴史的技術の継承を重んじていることから販売不振が続き、伝統的工芸品の二風谷イタ、二風谷アットゥシを制作する二風谷民芸組合の組合員15名のうち、近年の若手後継者は1名のみで、後継者不足に直面している。今後は、二風谷民芸組合の専門家の指導を受け、後継者確保のための技術継承を具体的に進めるとともに、デザイナーの指導を受け新たな商品を開発することに期待が寄せられている。

また、二風谷イタ(お盆)など木彫工芸品の原材料であるクルミやカツラ等の樹木、樹皮から糸を作って織物をつくる二風谷アットゥシの原材料であるオヒョウ等の樹木の不足にも直面していることから、地域の賦存量把握が必要で、調査方法や入手法を確立していくことが重要と言える。

このような状況を鑑み、第5次平取町総合計画の後期計画(平成23～27年度)において、生業に結びつく支援と後継者の育成を目的として、アイヌ伝統工芸品産業振興支援事業の実施を決めている。

さらに、生産工芸品を販売する展示会開催も極めて重要であることから、新商品開発などの取り組みと併せて積極的に展開し、平取町総合計画における伝統的工芸品産業構築との連動の中から、後継者育成と雇用の創出を図ることが必要である。

(観光)

観光分野に関しては、古から受け継がれてきたアイヌ文化が最も特徴的な地域資源といえ、平取町立二風谷アイヌ文化博物館をはじめ、萱野茂二風谷アイヌ資料館や伝統的家屋のチセ群などのアイヌ文化施設のほか、温泉やキャンプ場などのレクリエーション施設が集積する二風谷地区が平取町の観光の中心となっており、平成26年には「びらとり温泉ゆから」が宿泊機能を伴ってリニューアル・オープンし、滞在客が増えつつある。そのほか、日本百名山の一つにもなっている日高山脈最高峰の幌尻岳には、多くの登山客が訪れており、豊かな自然も観光資源となっている。地域の特産品としては、びらとりトマトで有名なニシパの恋人ブランドの農産加工品、地産地消の会の飲食店で提供されるニシパの恋人ランチ、二風谷の民芸店等で販売されるアイヌ伝統工芸品などが挙げられる。

一方、平成32年に民族共生の象徴となる空間を白老町に開園することを国が決定したことから、国立のアイヌ文化に関する博物館新設のインパクトに加えて、新千歳空港を頂点に、西側に白老町、東側に平取町が、ほぼ二等辺三角形の位置関係にあり、白老町は新千歳空港や札幌から直結する公共交通、高速道路が直結するアクセス的な優位性もあるため、アイヌ文化に関心のある人々のうち、当町への来町者の激減を招くことが確実で、観光分野や伝統工芸分野への影響が予想されており、その対策が急務となっている。

産業の低迷は、「雇用の場と機会」を奪い、生産人口の流出にも歯止めがかからず、過疎化が進行し、地域の活力を低減させていく大きな要因となっていることから、その対策が極めて重要となっている。

(地域交通)

当町の主要な交通については、町内に鉄道交通をもたないことから、道路交通に依存している。

平取町を通過する国道237号は、かつては札幌・千歳方面の道央圏から釧路方面の道東圏を結ぶ幹線として多くの車両が通行し、観光ルートにもなっていたが、平成23年10月に道東自動車道が全線開通し、トマムIC・十勝清水IC間の交通量が道東自動車道全線開通前の1.5倍（平成24年10月北海道開発局公表データ）に増加するなど日高地域の観光ルートが変わっており、平取町を縦断する国道237号の交通量が極端に減少していることから沿線商工観光の関係者は、危機に直面している。

今後は、平取町を目的地とした来訪策を具体化していくことが必要となっている。

4-3 地域再生の目標

当町の産業を担う後継者不足の深刻化、地域の産業に影響を与える来町者の減少などの地域の課題を解決し当町の活力を創生し活性化するため、当町の個性を活用し独自に実施している地域固有のアイヌ文化を活かした文化振興や交流人口増大のためのバスツアーの

取組や厚生労働省の実践型地域雇用創造事業や国土交通省、文化庁等の関係省庁連携による地域再生の取り組みと連動しながら、地域に蓄積された技術を継承し発展させる伝統工芸産業の構築や地域の交流人口の増加を通じて経済的な波及効果をもたらす観光産業の拡充による雇用の創出と地域振興を目標とする。

具体的には、地域の商工観光・文化活動等関係者が連携した体制のもとに、厚生労働省の実践型地域雇用創造事業も活用し、地域資源を積極的に活用した雇用を生み出す商品開発などの企画開発と実践を行い、この事業を通じて、雇用の拡大を図るとともに、アイヌの人々をはじめとする地域住民の“誇り”の醸成、地域の魅力向上を図り、活力あふれる持続した地域づくりを目指す。

具体的な指標として、以下の通り、設定する。

目標1 アウトプット指標（実践型地域雇用創造事業の参加企業数・参加者数）

平成27年度 28社 →平成28年度 28社 →平成29年度 28社 計 84社

平成27年度 79人 →平成28年度 79人 →平成29年度 79人 計 237人

目標2 アウトカム指標（実践型地域雇用創造事業参加後の就職者数）

平成27年度 28人 →平成28年度 28人 →平成29年度 28人 計 84人

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

平取町が抱える人口減少、産業の後継者不足、来訪者の減少などの課題をふまえて、地域再生を図っていくため、伝統工芸産業分野と観光産業拡充分野を重点分野として、事業を実施する。

伝統工芸産業分野については、産業の担い手を育成・拡充し、すそ野を広げていくことを目的として、現代のニーズに即した商品開発や販路拡大を進めるため、デザイナーやバイヤー、プロデューサーと連携して、商品開発から販売促進まで一貫して取り組む体制を構築する。また、森林調査の専門家や国有林・民有林（三井物産社有林等）の関係機関と連携し、自然素材の原材料を把握し、原材料を安定的に入手できる仕組みづくりを行う。さらに、教育機関との連携とともに、伝統工芸品の制作機器を取り入れた工程の検討や商品開発に関して専門機関（北海道立総合研究機構工業試験場）とも連携した取り組みを進め、後継者の発掘・育成を行う。

これらの取り組みを実施するにあたっては、平取町をはじめとする行政機関が側面的支援を、平取町地域活性化協議会が、原材料・マーケット調査、新商品開発、試験販売などのパイロット的な役割と関係者のコーディネート・サポート役を務め、一層の推進を図ることとする。

観光産業拡充分野については、平取町のさまざまな地域資源を観光面で活用し、地域の関係機関・団体ならびに地域外の観光会社等と連携し、文化と食を活かしたツア

ープログラム開発し、有機的なネットワークを形成する。また、特産品の開発や販売促進を図る取り組みと地域の関係施設・団体と体制づくりを行う。

これらの取り組みを実施するにあたっては、平取町をはじめとする行政機関の側面的支援を受けながら、平取町地域活性化協議会が、ツアープログラムの開発と試行、観光情報の発信などのパイロット的な役割と関係者のコーディネート・サポート役を務め、実績を積み重ねていくこととする。

5-2 特定政策課題に関する事項

該当なし

5-3 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

5-4 その他の事業

5-4-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

■ 実践型地域雇用創造事業（厚生労働省）：【B0906】

I 雇用拡大メニュー（事業主を対象）

事業実施主体：

平取町地域活性化協議会

- ・平取町地域活性化協議会での協議を得たうえで、平成27年度から「地域活力実践室」を平取町に新設し、平取町長のリーダーシップの下、本事業の進捗管理（業務面・経理面）に関与していく。
- ・特産品開発・販売や観光産業に関する知識・経験を有する人材を事業推進員のリーダーに迎え、農協、森林組合、商工会、アイヌ協会、建設協会、二風谷民芸組合をはじめとする地域経済・文化団体等の地域関係者を巻き込みながら、地域全体で事業を推進していく。

(1) 工芸・物販・観光産業新規参入セミナー

事業内容：

工芸品製造・特産品販売・観光など新分野への進出や多角経営をめざす経営者等を対象として、異業種参入・経営多角化と販売促進に関する研修を実施し、雇用の受け皿づくりを推進する。

① 特産品マーケティング・販売戦略セミナー

1日目 特産品のマーケティングと販売戦略（地域対象）

2日目 特産品の販売戦略（地域外対象）

3日目 インターネット活用販売促進セミナー1（ホームページ、SNS活用等）

4日目 インターネット活用販売促進セミナー2（ネットショップ開設等）

② 観光ビジネス戦略セミナー

1日目 観光産業のビジネス戦略

2日目 販路開拓とPR

想定される受講者：

- ① 製造販売事業主・飲食店事業主および創業予定者等
- ② 観光業・建設業・観光農園等経営者および創業予定者等

事業実施期間：

平成27年7月～平成30年3月

①2H×4日×年1回／定員7社

②2H×2日×年1回／定員7社

事業実施主体：

平取町地域活性化協議会

事業内容を実施するに当たっての地域のニーズ・シーズの把握方法：

地域内の製造販売業・飲食店業・建設業・農業者・観光関連事業者等にヒアリングを実施した結果、平取町の地域資源を活かした商品の開発・販売、例えば、伝統が継承される工芸品や土産品、あるいはアイヌ文化やびらとり温泉ゆからを核とした観光振興に関する事業の多角化、新規参入に関心があり、特産品のマーケティングや販売戦略、観光ビジネス戦略を内容とする「工芸・物販・観光産業新規参入セミナー」のニーズを把握している。

(2) 地域資源活用新商品開発セミナー

事業内容：

観光など新分野への進出や多角経営化をめざす製造販売事業主・飲食店事業主・建設業主・その従業員、観光農園等の創業予定者（企業経営者等）を対象に、本事業実践メニューで開発された新商品や観光プログラムを紹介・提供するセミナーを開催する。

① 特産品等新商品開発公開セミナー

② 観光新商品開発公開セミナー

想定される受講者：

地域内の観光など新分野への進出や多角経営化をめざす製造販売事業主・飲食店事業主・建設業主・その従業員、観光農園等の創業予定者（企業経営者等）等

事業実施期間：

平成27年7月～平成30年3月

2H×2日×年2回／定員14社（7社×年2回）

①2H×1日×年1回／定員7社

②2H×1日×年1回／定員7社

事業実施主体：

平取町地域活性化協議会

II 人材育成メニュー（地域求職者を対象）

（1） 工芸制作技術習得講習

事業内容：

地域求職者の就業や創業を目的とし、アイヌ伝統工芸の歴史と技術継承を基盤とした、伝統的工芸品産業の育成・振興に必要な技術の蓄積、商品構成の多様化や新たな商品開発に向けた人材育成のための講習を実施する。

① 木彫制作加工技術習得講習

1日目 工芸品の原材料1（樹木等の見分け方、現地調査）

2日目 工芸品の原材料2（製材見分け方、保存）

3日目 木彫の基本と制作実習1（木彫の基礎、制作実習）

4日目 木彫実習2（沙流川流域の特徴、彫刻刀の研ぎ方、イタ等の制作実習1）

5日目 木彫実習3（イタ等の制作実習2）

② 刺繍・染色・織物加工技術習得講習

1日目 刺繍の基本と制作実習1（デザイン等、制作実習）

2日目 刺繍制作実習2（切伏せの仕方、制作実習）

3日目 染色の基本と染色実習1（染色方法・種類、小物染色）

4日目 染色実習2（植物染料を使用した染色実習）

5日目 織物の基本と織物実習1（織り機の扱い方／織り機実習）

6日目 織物実習2（小型織り機等を利用した織物実習）

③ 木工制作加工技術習得講習

1日目 木工機械の基本と実習1（機械の基本種類と用途／操作実習）

2日目 木工制作機械実習2（切断・仕上げ等の操作実習）

3日目 木工制作機械実習3（コースター等加工実習）

4日目 木工制作機械実習4（イタ(木製のお盆)等加工実習1）

5 日目 木工制作機械実習 5（イタ等加工実習 2）

想定される就職先：

地域内の工芸・林産・観光関連事業者等

事業実施期間：

平成27年7月～平成30年3月

①4H×5日×年1回／定員7人

②（4H×4日、2H×2日）×年1回／定員10人

③2H×5日×年1回／定員7人

事業実施主体：

平取町地域活性化協議会

事業内容を実施するに当たっての地域のニーズ・シーズの把握方法：

地域内の工芸品制作関係者や林産業関係者・観光関係者にヒアリングを実施した結果、伝統工芸の後継者育成のために必要な原材料となる木材の見分け方、基本的な技術の習得、現代のニーズに合わせた新たな商品開発に必要な人材にニーズがあることが認識された。また、ハローワーク担当者へのヒアリングをもとに、地域求職者が地元で継承される文化を生業に結びつけていくために、木彫や刺繍、織物に加えて染色や木工機械操作などの多様な技術を習得する機会を求めているニーズも把握したので、求人側・求職側の両方のニーズを踏まえた事業内容を設定している。

（2） 地域資源活用新商品開発講習

事業内容：

飲食・食品加工・宿泊・物販施設等への就業や創業を目的として、平取町で生産されるトマトをはじめとする野菜類（きゅうり、かぼちゃ、人参、ホウレン草、山芋など）や古くから食文化に取り入れられてきたキノコ、エゾシカの食材などの加工・調理品を、平取町を訪れる観光客の土産品として、あるいは地域の飲食・宿泊施設で提供できるような特産品開発に携わる人材を育成する講習を実施する。

① 農林畜産品等加工品開発講習

1 日目 野菜加工に関する衛生管理（座学：衛生管理／加工実習、評価）

2 日目 野菜加工品実習 1（座学：マーケティング／季節野菜加工実習、評価）

3 日目 野菜加工品実習 2（座学：加工方法／瓶詰製品等加工実習、評価）

4 日目 畜産品等加工に関する衛生管理 1（座学：食材の特性／卵製品加工実習、評価）

5 日目 畜産品等加工品実習 2 (座学：パッケージ・デザイン等、黒豚製品等加工実習、評価)

6 日目 畜産品等加工品実習 3 (座学：現状の特産品販売、鹿肉製品等加工実習、評価)

② スイーツ・菓子類等開発講習

1 日目 スイーツ・菓子加工実習 1 (座学：マーケティング／スイーツ加工の基本実習、評価)

2 日目 スイーツ・菓子加工実習 2 (座学：平取らしい特産品／地場野菜等を用いたスイーツ・菓子加工実習)

3 日目 スイーツ・菓子加工実習 3 (座学：パッケージ・デザイン／卵等を用いたスイーツ・菓子加工実習)

想定される就職先：

地域内の食品加工・飲食・物販・観光関連事業者等

事業実施期間：

平成27年7月～平成30年3月

① (4H×4日、3H×2日) ×年1回／定員7名

② (4H×2日、3H×1日) ×年1回／定員7名 (調理：2時間)

事業実施主体：

平取町地域活性化協議会

事業内容を実施するに当たっての地域のニーズ・シーズの把握方法：

地域内の農林畜産事業者や飲食・宿泊事業者・観光関係者にヒアリングを実施した結果、地域内外の人が購入できる地域の資源を活かした特産品、スイーツ・菓子等土産品の開発・製造に携わる人材にニーズがあることが認識された。また、ハローワーク担当者へのヒアリングをもとに、地域求職者が地域で必要とされる特産品を製造・販売しながら地元に着定できる仕事を求めているニーズも把握したので、求人側・求職側の両方のニーズを踏まえた事業内容を設定している。

(3) 接客・地域ガイド講習

事業内容：

平取町は、アイヌ文化が古くから栄え、町内各地に伝承地があり、さまざまな形で現代に継承されている。また、幌尻岳を頂点とする豊かな自然や文化的景観があることから、現在、平取町には修学旅行生をはじめとしてアイヌ文化の学習を目的とした

関心層や幌尻岳の登山者、トレッキングなどの愛好者などが訪れているが、それらの人々に地域の歴史、とりわけ正しく認識されていないことが多いアイヌの人々の文化や自然との接し方について、正確にわかりやすく解説したり、「おもてなし」を提供できる、基本的なマナーを身につけたガイドとしての人材が不足しているのが実情である。歴史文化や自然について、ガイドできる知識と技術習得の場が必要となっている。

また、高齢化が進む中で、高齢者さらには障がいを持った人々が旅行に楽しむマーケットの拡大が予想されており、平取町内でも町民が開設したバリアフリー対応の民宿は、車いす利用者などから好評を得て徐々に利用者が増えつつある。しかしながら、町内の公共・民間施設とも未だバリアフリー対応の施設が少ないことや、それらの人々に対する知識や技術を持つ人が不足しているのも実情で、高齢者や障がいを持った方々の受け入れ態勢の整備を早急に進めていく必要がある。

さらに、平取町にも、台湾・タイなどのアジア圏から観光客やアイヌ文化に関心を持つ欧米からの来訪者が徐々に増えつつあるが、今後、北海道新幹線の開業や白老町における民族共生の象徴となる空間整備、国立のアイヌ民族博物館の新設、東京オリンピックの開催に向けて増大が期待される外国人観光客への対応も必要となっているが、外国語を話すことができる人材が不足していることから、外国人来訪者や高齢者・障がいを持った人々が観光に訪れた際に接遇できる人材の育成にも力を入れていく必要があり、観光・宿泊施設等での就業やガイドとしての創業を目的とした講習を行う。

① 接客・インバウンド対応講習

- 1 日目 接客マナー演習 1 (接客の基本、言葉遣い等)
- 2 日目 接客マナー演習 2 (来客・販売対応実習)
- 3 日目 高齢者・障がい者ケア演習 1 (対応の仕方、注意事項等)
- 4 日目 高齢者・障がい者ケア演習 2 (施設等でのケア実習)
- 5 日目 インバウンド対応演習 1 (案内に必要な英会話と演習)
- 6 日目 インバウンド対応演習 2 (案内に必要な中国語と演習)
- 7 日目 インバウンド対応演習 3 (案内に必要な韓国語と演習)
- 8 日目 インバウンド対応演習 4 (外国語を用いたガイド実習)

② 地域ガイド講習

- 1 日目 自然ガイド演習 1 (座学：草木、鳥類、昆虫などの生態、リスクマネジメント (危険の予防・対処等) / フットパスコースなどのガイド方法)
- 2 日目 自然ガイド演習 2 (実際のコースをガイド実習)
- 3 日目 アイヌ文化ガイド演習 (座学：アイヌ文化を歴史から学ぶ / アイヌ文化ガイド実習)
- 4 日目 博物館等のガイド演習 (座学：博物館の展示 / 博物館ガイド実習)

5 日目 地域歴史・文化・産業ガイド演習（座学／ガイド実習）

6 日目 地域食文化ガイド演習（座学：伝統食／調理実習）

想定される就職先：

地域内の飲食・宿泊・物販・観光関連事業者等

事業実施期間：

平成27年7月～平成30年3月

①（4H×2日、2H×6日）×年1回／定員7人

②（4H×4日、2H×2日）×年1回／定員7人

事業実施主体：

平取町地域活性化協議会

事業内容を実施するに当たっての地域のニーズ・シーズの把握方法：

地域内の飲食・宿泊事業者・観光関係者にヒアリングを実施した結果、観光客のニーズにきちんと対応できる観光ガイドや、外国人と会話できたり、障がいをもった人にも対応できるガイドのニーズがあることが認識された。また、ハローワーク担当者へのヒアリングをもとに、地域求職者が今後、発展が期待される観光分野に関連して平取町ならではのアイヌ文化や豊かな自然をガイドする仕事を求めているニーズも把握したので、求人側・求職側の両方のニーズを踏まえた事業内容を設定している。

（4）IT・情報発信技術習得講習

事業内容：

平取町の文化・観光施設や各種事業の取り組みなどについて、従来は、平取町役場などの公的団体が中心になって情報発信を行い、近年は個人のSNSを用いた情報発信を徐々に拡大しつつあるが、民間企業をはじめとして未だ情報発信力が弱いと言われているのが実情である。また、近年は、販売施設や現地を訪れて商品を購入するよりもインターネットを用いて商品や各地の特産品を購入する消費者が飛躍的に増えていると言われているが、現状では、平取町ではインターネットを用いた商品PRや販売方法に対応できる人材が不足している。したがって、それらのIT技術を活用し、地域の企業・事業者に応用できる人材の育成に力を入れていく必要がある。それらのことから、町内外に情報発信するとともに、それぞれの事業活動に必要なパソコン・インターネット等のIT関連技術を習得するため（観光関連産業における就業や創業支援を目的とした）の講習を実施する。

1 日目 パソコン文書作成・計算ソフト演習（ワードの基本、応用）

- 2 日目 パソコン・インターネット情報発信演習（ホームページ、ブログ、Facebookの利用）
- 3 日目 インターネット販売演習 1（WEBサイトの見せ方、写真の撮り方など）
- 4 日目 インターネット販売演習 2（販売サイト加入、ネットショップ開設方法）
- 5 日目 インターネット販売演習 3（ネットアクセス対策等販売促進方法など）

想定される就職先：

地域内の観光関連・飲食・宿泊・物販事業者等

事業実施期間：

平成27年7月～平成30年3月

4H×5日×年1回／定員7人

事業実施主体：

平取町地域活性化協議会

事業内容を実施するに当たっての地域のニーズ・シーズの把握方法：

地域内の観光関連・飲食・宿泊・物販事業者にヒアリングを実施した結果、地域内事業者にも、インターネット等のIT技術を積極的に活用した事業内容や商品のPR・販売に携わる人材のニーズがあることが認識された。また、ハローワーク担当者へのヒアリングをもとに、地域求職者が若年層や主婦層を中心にパソコンを使った文書作成や表計算に加えて情報発信やインターネットを用いた販売等に関する仕事を求めているニーズも把握したので、求人側・求職側の両方のニーズを踏まえた事業内容を設定している。

Ⅲ 就職促進メニュー

(1) ホームページの開設・運営

事業内容：

実践型地域雇用創造事業で実施予定の各種事業等の周知のため、ホームページの開設・管理を行い、魅力ある本地域の地域資源の情報発信を通じて、U・I・Jターン就職を喚起し、地域における雇用促進を図る。

事業実施期間：

平成27年7月～平成30年3月

事業実施主体：

平取町地域活性化協議会

(2) 就職面接会の開催

事業内容

各種関係機関と協力して、本事業を利用した事業者、求職者を対象として、就職面接会を実施することにより、求人・求職のマッチングを通じた就業機会の拡大と充実を行い、雇用拡大を図る。

事業実施期間：

平成27年7月～平成30年3月

2H×1日×1回／定員20人

事業実施主体：

平取町地域活性化協議会

事業内容を実施するに当たっての地域のニーズ・シーズの把握方法：

地域内の製造販売業・飲食店業・建設業・農業者・観光関連事業者等にヒアリングを実施した結果、観光業などに従事者が不足している地域内事業者が求める人材ニーズを把握した。また、ハローワーク担当者へのヒアリングをもとに、地域求職者が求めている地元で長く続けていける仕事を求めているニーズも把握したので、求人側・求職側の両方のニーズを踏まえた事業内容を設定している。

IV 雇用創出実践メニュー

(1) 地域資源活用新商品開発事業

事業内容：

沙流川流域に継承されるアイヌ伝統工芸を頂点とした、伝統的工芸品産業を形成し、商品構成を多様化する一環として、現在のニーズに対応した工芸品の新商品開発を行う。

アイヌ伝統工芸は、経済産業大臣から指定された、二風谷イタ、二風谷アットゥシなどの伝統的工芸品のレベルに達するには、長年の技術的修練と経験を必要とすることから、雇用の広がりを生むことが比較的難しい分野であると思われる。そのため、平成24～26年度の平取町実践型地域雇用創造事業における雇用実践メニュー「伝統工芸のブラッシュアップ」での経験・成果をふまえて、本構想では、アイヌ文化をモチーフとして、一例として、加工素材に木材や植物繊維の自然素材ばかりでなく、新たな素材を用いた商品開発や、制作機器を取り入れることで省力化と量産化の工程を組み込んだ商品開発などに取り組み、セレクトショップ等を利用するような個人のライフスタイルに関心を持つ消費者層や新しい感性を持つ若年者層が気軽に購入できる商品の多様化、あるいは欧米人やアジア圏からの観光客にも受け入れられる商品構

成を充実していくことで、新たな雇用を生み出せる産業形成を目指して取り組む。

また、平取町で生産される農産物・畜産物や林産物を利用した地域ならではの土産品の提供をめざし、農林畜産加工品・調理品やスイーツなどの嗜好品の新商品開発を行う。

平取町は、年間 40 億円を超える販売高を誇るニシパの恋人ブランドで知られるトマトの産地として北海道内では知られており、地産地消や通年雇用を目的として、平成 24～26 年度の平取町実践型地域雇用創造事業における雇用実践メニュー「農林産物の活用」において、地元のトマトを用いた加工食品の商品開発を行ったが、本構想では、地域の看板とも言えるトマトに加えて生産量が伸びつつある寒締めハウレン草を用いて、ピザなどの加工商品の多様化に加えて、地元で生産される卵を用いた菓子類・スイーツの商品化など、観光客の土産物や地元で利用される商品開発により、新たな雇用を生み出せる食品製造と販売の商業振興を目指して取り組む。

事業で開発する成果物の具体例：

現代に伝わるアイヌ伝統工芸品の継承と新たなデザインや制作機械等の手法を取り入れた新商品（彫刻機を用いたアイヌ文様入りコースター、アイヌ語地名や商店・施設名などを記載したアイヌ文様入り銘板（看板）、アイヌ文様や刺繍入りレリーフ、シリコン等人工素材を用いたアイヌ文様入りアクセサリ等）や地域の特色を活かした土産品（加工用トマト等加工品、トマトやハウレン草等を用いたピザ等食品加工品、茸類加工品、地場産卵や鹿肉等の燻製加工品、地場産卵を利用したプリン・ケーキ等やトマト等特産品を利用した菓子類等）

事業で開発した成果品の具体的な活用方法（成果物をどのように活用することで雇用を創造するか）：

成果物である新商品の開発ノウハウや開拓した販路を地域内事業者に公開することにより、当該事業所での売上拡大や他分野への事業拡大による従業員の雇用増、起業等が見込まれる。例えば、アイヌ文様入りの各商店の看板、機械で文様等を彫り、町内商店街などで統一、各商店の特徴も入れるなど、色々な展開ができ、雇用増が見込まれる。地場産卵でいえば、安全安心新鮮な卵ということに加え、地元でしか食べることのできないといったケーキやプリンなどのスイーツにすることで付加価値が付き、この商品を目的とした来町者増につながり、雇用増が見込まれるなど。

事業実施期間及び実施スケジュール：

平成27年7月～平成30年3月

【平成27年度】

- ① マーケティング調査

- ・ヒアリング調査【7～9月】
- ・ネット等情報収集【7～12月】
- ② 工芸品新商品開発
 - ・新商品開発(2種類を計画)【9～3月】
 - ・協力事業者募集【11～1月】
 - ・公開セミナー【2～3月】
- ③ 農林畜産品・スイーツ等特産品開発
 - ・新商品開発(2種類を計画)【9～3月】
 - ・協力事業者募集【11～1月】
 - ・公開セミナー【2～3月】
- ④ 開発商品の販路拡大・試験販売
 - ・試験販売、PR(町内・札幌・北海道外)【1～3月】

【平成28年度】

- ① マーケティング調査
 - ・ヒアリング調査【4～9月】
 - ・ネット等情報収集【10～12月】
 - ・イベント等アンケート調査【10～12月】
- ② 工芸品新商品開発
 - ・H27商品ブラッシュアップ【4～1月】
 - ・新商品開発(3種類を計画)【4～1月】
 - ・協力事業者募集【6～1月】
 - ・公開セミナー【2～3月】
- ③ 農林畜産品・スイーツ等特産品開発
 - ・H27商品ブラッシュアップ【4～1月】
 - ・新商品開発(3種類を計画)【4～1月】
 - ・協力事業者募集【10～1月】
 - ・公開セミナー【2～3月】
- ④ 開発商品の販路拡大・試験販売
 - ・試験販売、PR(町内・札幌・北海道外)【9～2月】

【平成29年度】

- ① マーケティング調査
 - ・ヒアリング調査【4～9月】
 - ・ネット等情報収集【4～9月】
 - ・イベント等アンケート調査【4～9月】
- ② 工芸品新商品開発
 - ・H28商品ブラッシュアップ【4～12月】

- ・新商品開発(9種類を計画)【4～12月】
- ・協力事業者募集【6～1月】
- ・公開セミナー【2～3月】
- ③ 農林畜産品・スイーツ等特産品開発
 - ・H28商品ブラッシュアップ【4～12月】
 - ・新商品開発(3種類を計画)【4～12月】
 - ・協力事業者募集【9～1月】
 - ・公開セミナー【2～3月】
- ④ 開発商品の販路拡大・試験販売
 - ・試験販売、PR(町内・札幌・北海道外)【6～2月】

事業実施主体：

平取町地域活性化協議会

(2) 着地型観光システムの開発事業

事業内容：

工芸品制作、キノコの収穫体験、寒締めほうれん草の収穫体験のような農作業、伝承地巡りや自然散策などの体験を取り入れた観光プログラムの紹介、多様な地域資源を取り入れた観光ツアーの提供のほか、地域ガイドによる案内サービスなどを運営するシステムの開発を行う。

事業で開発する成果物の具体例：

地域資源を活かした体験型のプログラム（アイヌ語地名フットパスコース、地域の食を活かした体験型ツアー等）や、沙流川流域のアイヌ文化や自然体験などの障がい者・インバウンド対応観光プログラムの構築及び、地域ガイド派遣システムの開発。

事業で開発した成果品の具体的な活用方法（成果物をどのように活用することで雇用を創造するか）：

成果物である新商品の開発ノウハウや開拓した販路を地域内事業者に公開することにより、当該事業所での売上拡大や他分野への事業拡大による従業員の雇用増、起業等が見込まれる。例えば、構築されたガイド派遣システムで、博物館などの見学時、また自然散策等を含め、平取町の歴史などを交えた案内を有料で行うなど。また、体験型のプログラムを実施PRすることで来町者が増えるなど雇用増、起業等が見込まれる。

事業実施期間及び実施スケジュール：

平成27年7月～平成30年3月

【平成27年度】

- ① 体験型観光プログラムの開発
 - ・プログラムの開発【7～12月】
 - ・協力事業者募集【10～12月】
 - ・公開セミナー【2～3月】
- ② 観光情報の提供サービス（観光案内所・博物館ガイドなど）の試行
 - ・観光案内所等情報サービス【7～10月】
- ③ 地域内の案内サービス（観光エリア内案内バス等）の試行
 - ・観光案内バス運行等【8月】
- ④ 地域内外との観光ネットワークの構築
 - ・観光会社等連携活動（道内・北海道外）【8～2月】
- ⑤ 観光モニターツアーの実施
 - ・開発プログラムの試行【9～3月】
 - ・協力事業者募集【12～3月】

【平成28年度】

- ① 体験型観光プログラムの開発
 - ・プログラムの開発【4～12月】
 - ・協力事業者募集【4～12月】
 - ・公開セミナー【2～3月】
- ② 観光情報の提供サービス（観光案内所・博物館ガイドなど）の試行
 - ・観光案内所等情報サービス【5～10月】
- ③ 地域内の案内サービス（観光エリア内案内バス等）の試行
 - ・観光案内バス運行等【8月】
- ④ 地域内外との観光ネットワークの構築
 - ・観光会社等連携活動（道内・道外・海外）【4～2月】
- ⑤ 観光モニターツアーの実施
 - ・開発プログラムの試行【5～2月】
 - ・協力事業者募集【9～2月】

【平成29年度】

- ① 体験型観光プログラムの開発
 - ・プログラムの開発【4～10月】
 - ・協力事業者募集【7～1月】
 - ・公開セミナー【2～3月】
- ② 観光情報の提供サービス（観光案内所・博物館ガイドなど）の試行
 - ・観光案内所等情報サービス【5～10月】

- ③ 地域内の案内サービス（観光エリア内案内バス等）の試行
 - ・観光案内バス運行等【8月】
- ④ 地域内外との観光ネットワークの構築
 - ・観光会社等連携活動（道内・道外・海外）【4～12月】
- ⑤ 観光モニターツアーの実施
 - ・開発プログラムの試行【5～12月】
 - ・協力事業者募集【9～2月】

事業実施主体：

平取町地域活性化協議会

5-4-2 複数事業と密接に関連させて効果を高める独自の取組

該当なし

5-4-3 支援措置によらない独自の取組

① 農業者就農促進対策事業

事業内容：新規参入希望農業研修生の就農時の負担を軽減するために農業施設、機械等の購入資金、家賃の1/2を助成する。

事業主体：平取町

事業規模：平成27年度 9,000千円

期 間：平成27年度～平成29年度

② 農業支援センターの運営

事業内容：平取町農業者を対象とした営農指導・担い手育成・土づくり業務を行う農業支援センターの運営を行う。

事業主体：平取町・びらとり農業協同組合・沙流土地改良区

事業規模：平成27年度 2,656千円

期 間：平成27年度～平成29年度

③ 農産物加工場管理委託

事業内容：平取町の農産物の高付加価値化（主としてトマトジュース）による農業者の収益向上と農業の振興を目的として加工場の管理委託を行う。

事業主体：平取町

事業規模：平成27年度 3,000千円

期 間：平成27年度～平成29年度

④ 地場産業振興対策事業

事業内容：地域の資源を活用した特産品開発事業に必要な経費に対する補助を行う。

事業主体：平取町

事業規模：平成27年度 1,570千円

期 間：平成27年度～平成29年度

⑤ アイヌの伝統的生活空間（イオル）再生事業

事業内容：自然と共生してきたアイヌの人々の生活の場をイメージし再生するために、イオルの森整備、コタン（集落）の再現、水辺空間整備の事業を行う。

事業主体：平取町

事業規模：平成27年度 11,887千円

期 間：平成27年度～平成29年度

⑥ 「21世紀・アイヌ文化伝承の森」推進事業

事業内容：アイヌ文化伝承にかかる平取町内の国有林の育成・回復・保全するためのプロジェクトに関する協議と調査・試行を実施する。

事業主体：平取町

事業規模：平成27年度 536千円

期 間：平成27年度～平成29年度

⑦ アイヌ伝統工芸品産業支援事業

事業内容：伝統的工芸品の指定団体である二風谷民芸組合によるアイヌ工芸品の制作・販売促進・商品開発等への支援を行う。

事業主体：平取町

事業規模：平成27年度 5,000千円

期 間：平成27年度～平成29年度

⑧ 平取町地域おこし協力隊員活用事業

事業内容：産業担い手の育成となる地域おこし協力隊員の活動と起業を支援するための事業を行う。

事業主体：平取町

事業規模：平成27年度 14,000千円

期 間：平成27年度～平成29年度

⑨ 歴史文化遺産を活かした地域活性化事業

事業内容：埋もれた歴史文化資料を調査し、それを活用した取り組みに係る働く場

をつくることによって地域の活性化を図る事業を行う。

事業主体：平取町

事業規模：平成27年度 7,020千円

期 間：平成27年度～平成29年度

⑩ 広域交流圏構想地域活性化事業

事業内容：沙流川・鶴川ペアライン構想を基に、むかわ町・日高町・平取町の3町の広域交流圏域を創造し札幌圏等から誘客することによって地域を活性化させる事業を行う。

事業主体：平取町

事業規模：平成27年度 6,900千円

期 間：平成27年度～平成29年度

⑪ 起業化支援対策事業

事業内容：平取町における産業の振興と雇用の拡大をめざすために、起業化の取り組みを支援する事業を行う。

事業主体：平取町

事業規模：平成27年度 1,000千円

期 間：平成27年度～平成29年度

⑫ 町民税1%まちづくり事業

事業内容：町民税の1%に相当する額を財源として、町民活動や地域コミュニティーの活性化をはかるためのまちづくり活動を支援する事業を行う。

事業主体：平取町

事業規模：平成27年度 2,280千円

期 間：平成27年度～平成29年度

⑬ 重要文化的景観保護推進事業

事業内容：平成19年に文化庁に選定された重要文化的景観「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」の保全・活用を図るため、第1次選定区域ならびに第2次以降の選定予定区域の調査・普及啓発に関する保護推進活用事業を行う。

事業主体：平取町

事業規模：平成27年度 12,700千円

期 間：平成27年度～平成29年度

⑭ びらとり温泉など環境整備事業

事業内容：平取町の交流産業の拠点施設となる二風谷地区温泉施設等の波及効果を高めるため、維持・補修・活用に関する事業を行う、

事業主体：平取町

事業規模：平成27年度 3,000千円

期 間：平成27年度～平成29年度

5-5 計画期間

認定の日から平成30年3月末まで

6 目標の達成状況に係る評価に関する事項

6-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

実践型地域雇用創造事業で定めているアウトプット指標及びアウトカム指標について、各年事業完了後に就職状況などの追跡調査を実施し把握し評価する。

また、当該事業で確立した技術やノウハウを活かし伝統的工芸品産業を構築するとともに、アイヌ文化はもとより地域の歴史や文化的景観などを基軸とした滞在型体験観光産業の充実度を入込み者数から算出し評価する。

更に、季節雇用の通年的な雇用への転換等により安定的な雇用が図られているかを追跡調査から把握し、進捗度を評価する。

6-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

各年度（平成27年度、平成28年度、平成29年度）ごとに下表の通り、アウトプット指標ならびにアウトカム指標を目標として設定する。

目標達成状況を評価するために、雇用拡大メニュー・人材育成メニュー・就職促進メニュー実施時に参加企業数・参加者数をカウントしてアウトプット数を把握し、さらに各年度事業終了時に上記のメニュー参加者へのアンケート調査と雇用創出実践メニューの実践支援員数の把握を通じて就職者数をカウントし、アウトカム数の確認を行う。

項目	関連事業	平成 27 年 基準年	平成 28 年 中間	平成 28 年 中間目標	平成 29 年	平成 29 年 最終目標
目標 1						
アウトプット 1	雇用拡大メニュー	28 社	28 社	56 社	28 社	84 社
アウトプット 2	人材育成メニュー	59 人	59 人	118 人	59 人	177 人
アウトプット 3	就職促進メニュー	20 人	20 人	40 人	20 人	60 人
合計(1)		28 社	28 社	56 社	28 社	84 社
合計(2+3)		79 人	79 人	158 人	79 人	237 人
目標 2						
アウトカム	雇用拡大メニュー	2 人	2 人	4 人	2 人	6 人
アウトカム	人材育成メニュー	18 人	18 人	36 人	18 人	54 人
アウトカム	就職促進メニュー	4 人	4 人	8 人	4 人	12 人
アウトカム	雇用創出実践メニュー	4 人	4 人	8 人	4 人	12 人
合計		28 人	28 人	56 人	28 人	84 人

6-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

関係機関等に報告し評価を受けるとともに、平取町のホームページで公表する。

7 構造改革特区計画に関する事項

該当なし

8 中心市街地活性化基本計画に関する事項

該当なし

9 産業集積形成等基本計画に関する事項

該当なし